

編集委員

委員長 佐藤 進

磯 水絵

高山 節也

牧角 悦子

町 泉寿郎

編集後記

『日本漢文学研究』第八号を刊行します。本誌は平成一六年度採択の二一世紀COEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」の事業のひとつとして発刊され、五年間の文科省の助成期間がすんだあと、平成二二年度からは、二松學舎大学学長直属の組織「日本漢文教育研究プログラム」にその刊行が引き継がれました。ついで、平成二四年度からは本学東アジア学術総合研究所の「日本漢文教育研究推進室」が本誌の編集発行をおこなうことになり、この8号がその最初の刊行ということになります。

発行組織は変わってきておりますが、執筆者の顔ぶれも論考内容も可能なかぎりグローバルな視点を失わないように奮闘して参りました。今号も、日中の文化交流は言わずもがな、日本とヨーロッパや朝鮮との文化交流などが狙上へのぼる論考が含まれており、また、海外の研究者の寄稿が途絶えることなく続いているのは、編集部として喜びとするところであります。

今号には本学牧角教授の特別寄稿が掲載されております。もとはハノイ人文社会科学大学における講演ですが、日本人の漢詩の特質が鋭く指摘されており、海外の若手研究者にとつて有益な論考ですので、編集部から特に寄稿を依頼したものであります。海外、とりわけ中国・台湾・韓国・ベトナムなどのいわゆる漢字文化圏の若手研究者にはご一読を推奨。

最後に、創刊以来本誌の編集業務にたずさわってきた金井晃主幹には、今号でもお世話になりました。編集部よりお礼を申し上げます。

(佐藤 進)